

図書室より「新着図書」のおしらせ

<一般書>

第167回 芥川賞受賞

『おいしいごはんが食べられますように』 高瀬隼子

心のざわつきが止まらない。最高に不穏な傑作職場小説！
職場でそこそこうまくやっている二谷と、皆が守りたくなる存在で料理上手な芦川と、
仕事ができるがんびり屋の押尾。ままならない人間関係を、食べものを通して描く傑作。

第167回 直木賞受賞

『夜に星を放つ』 窪美澄

コロナ禍のさなか、婚活アプリで出会った恋人との関係、30歳を前に早世した双子の妹の
彼氏との交流を通して、人が人と別れることの哀しみを描く「真夜中のアボカド」。
学校でいじめを受けている女子中学生と亡くなった母親の幽霊との奇妙な同居生活を描く
「真珠星スピカ」、父の再婚相手との微妙な溝を埋められない小学生の寄る辺なさを描く
「星の随に」など、人の心の揺らぎが輝きを放つ五編。

『#真相をお話しします』 結城真一郎

子供が四人しかいない島で、僕らは「YouTuber」になることにした。でも、ある事件を境に島の
ひとたちがよそよそしくなっていて……（「#拡散希望」）。日本の<いま>とミステリ
禁断の融合！ 緻密で大胆な構成と容赦ない「どんでん返し」の波状攻撃に瞠目せよ。
日本推理作家協会賞受賞作を含む、痺れる五篇。

『幸村を討て』 今村翔吾

亡き昌幸とその次男幸村一何年にもわたる真田父子の企みを読めず、翻弄される諸将。
徳川家康、織田有楽斎、南条元忠、後藤又兵衛、伊達政宗、毛利勝永、ついには昌幸の
長男信之までもが、口々に叫んだ。「幸村を討て！」と…。戦国最後の戦いを通じて描く、
親子、兄弟、そして「家」をめぐる、切なくも手に汗握る物語。